

研究課題名	下肢閉塞性動脈硬化症の大動脈腸骨動脈領域病変に対するステントグラフト治療の安全性と有効性に関する多施設共同研究
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科外科学 教授 高橋 信也
研究期間	倫理審査承認日～ 2023年3月31日
対象者	2018年10月1日から2020年12月31日の間に、東広島医療センターおよび共同研究機関において下肢閉塞性動脈硬化症の大動脈腸骨動脈領域病変に対するステントグラフト治療を施行された患者さん。
意義・目的	本研究の目的は、下肢閉塞性動脈硬化症の大動脈腸骨動脈領域病変に対するステントグラフトの実際的な症例数や治療成績を把握し、その有効性と安全性を調査し評価することにあります。末梢動脈疾患（PAD）に対する血管内治療が広く臨床で行われるようになってきている。大動脈腸骨動脈領域において、ベアメタルステント留置後の再閉塞、重症石灰化病変、大動脈閉塞性疾患などの複雑な病変の場合、治療リスクが高くなります。最新のガイドラインでは、大動脈分岐部や総腸骨動脈の石灰化病変などの複雑な病変には、ステントグラフトを使用することが強く推奨されています。ただ、日本で使用できる腸骨動脈用のステントグラフトは限られており、その長期成績を示した報告は少ないのが現状です。今回、広島大学関連病院での症例を集積することにより、より多くの症例数での検討が可能となります。
方法	大学病院心臓血管外科受診により作成される診療録情報（カルテ）を使用して研究を行います。通常の診療にて得られるデータのみで研究を行いますので、患者さんの体への負担はありません。術前データ、手術データなどを術後経過と比較検討して研究を行います。
共同研究機関	JA広島総合病院心臓血管外科、土谷総合病院心臓血管外科、広島大学病院心臓血管外科、福山循環器病院心臓血管外科、安佐市民病院心臓血管外科 東広島医療センターに情報を集め東広島医療センター（研究責任者 前田 和樹）が解析します。
試料・情報の管理責任者	東広島医療センター 心臓血管外科 前田 和樹
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 TEL：082-257-5215 広島大学大学院医系科学研究科外科学 教授 高橋信也